

### 第3回 円山川堤防調査委員会 委員からの主な意見

- ・越流状況等破堤のイメージは現場の状況からほぼ妥当と推察される。
- ・堤防小段があったこと、内水位が高かったことが落掘形成に際し減勢効果になったと考えられる。
- ・堤防改修による周辺施設に与える影響の複雑化と、その防止対策に要する巨費、対応の煩雑さ等が堤防高が不足していた原因の一つと考えられ、抜本的対策を望む。
- ・地盤沈下が越水にどの程度関係したか、どのような対策が必要か確認してほしい。
- ・堤防嵩上げが困難な箇所の理由を整理し、対策について最終報告書作成までに国交省として提案すること。
- ・被害の危険性、リスクはできるだけ集中させない、同程度に分散させる整備と堤防高等の管理が重要である。
- ・壊れない、越流しない堤防整備を原則とし、そのために高さを最低限確保した整備が大事である。
- ・本委員会の結論に「目標規模の出水に対し、災害を生じないよう…」との表現を示す。

以上